

旭川市報道依頼

各報道機関 様

発表日	令和元年6月3日
発信課	旭川空港事務所
担当者	碓井 結莉亜
連絡先	電 話 0166-83-2200
	F A X 0166-83-3643
	E-mail y_usui@city.asahikawa.lg.jp

分 類	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・行事 <input type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	令和元年 6月 11日
発表項目 (行事名)	令和元年度 旭川空港航空機災害消火救難活動訓練
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>1. 訓練主旨 旭川空港において航空機災害が発生したことを想定し、空港内外の関係機関が各緊急活動を連携して実施し、総合的な活動手順の習熟を図ることを目的とする。</p> <p>2. 訓練日時 令和元年6月11日(火)10時30分~12時00分 ※事故発生想定時刻は10時40分頃</p> <p>3. 訓練場所 旭川空港エプロン周辺(制限区域内)</p> <p>4. 参加機関 別紙1参照</p> <p>5. 訓練概要 別紙2参照</p>
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (有・無のいずれかを囲むこと。) ※ 有の場合、資料の内容を記入すること。なお、別途冊子等の配付を希望する場合は、その旨記入すること。
報道(取材)に当たってのお願い	<p>①10時00分~10時30分の間にNo.2ゲート前で入場許可受付をした後、旭川空港事務所職員の指示に従い入場してください(別添 入場経路参照)</p> <p>②駐車場は空港ビル有料駐車場をご利用ください。</p> <p>③取材時には旭川空港事務所職員が同行します。同行職員の指示に従い、取材をお願いします。</p>

	<p>④現場では、訓練車両の走行・消防車両からの放水、ヘリコプターの離着陸等がありますので、十分注意し、空港関係者の指示に従うようお願いいたします。</p> <p>⑤撮影等は基本的には見学・報道エリア内のみでお願いします。ここから外に出る際は、空港関係者の指示に従ってください。</p>
備 考	

訓練参加機関一覧

1. 訓練参加予定人員 及び車両等	<ul style="list-style-type: none"> ・人員 約 150 名 ・関係車両 約 30 台 (消防車両・救急車両等含む) ・航空機 2 機 (ドクターヘリ, 自衛隊ヘリ)
2. 参加団体	旭川市地域振興部旭川空港事務所 国土交通省東京航空局旭川空港出張所 日本航空(株)旭川空港所 全日本空輸(株)旭川空港所 (株)AIRDO 旭川空港所 旭川石油株式会社旭川空港事業所 日本通運(株)旭川総代理支店 道北航空サービス株式会社 旭川空港ビル株式会社 旭川空港総合維持管理 (JV) 株式会社セノン北海道支社旭川出張所 北海道警察旭川方面旭川東警察署
3. 旭川空港内機関	財務省函館税関札幌税関支署旭川空港出張所 札幌出入国在留管理局旭川出張所 厚生労働省小樽検疫所旭川空港出張所 気象技術センター旭川航空気象観測所
4. 協力機関	大雪消防組合 旭川市消防本部 北海道警察旭川方面本部警備課 旭川市医師会 旭川赤十字病院 旭川医科大学病院 陸上自衛隊第 2 師団司令部第 3 部防衛班

訓 練 概 要

1. 訓練想定

滑走路にて離陸滑走中に不具合が発生した航空機（B738）が離陸中止後，点検確認のため一度エプロンへ戻り，スポットへ向かって地上走行中，漏洩した燃料がブレーキ部（加熱状態）に触れ発火した。

火災を確認したパイロットはエプロン上で航空機を停止させ，乗員乗客に対し緊急脱出を指示した。

便名	セーフティ航空 2019 便
機種	ボーイング 737-800 型機（最大積載旅客 184 名） 想定機：マイクロバス
搭乗者	乗員 6 名 乗客 120 名
傷病者	緊急脱出中に負傷者発生。さらに濃煙熱気により逃げ遅れた要救助者が機内に取り残されている状況。 傷病者役は人員を 15 名程度，ダミー人形を 5 体程度で予定しており，重症・中等症・軽症・救命困難者（黒）・無傷者として設定。
火災想定等	漏洩した燃料により火災拡大。離陸に備え大量の燃料を搭載している。
想定現場	エプロン西側
救護区域	エプロン 5 番スポット，GSE 車両置場
現場調整所	エプロン 5 番スポット 南側
ドクターヘリ	エプロン 1 番スポット
自衛隊ヘリ	2 番スポット

2. 訓練概要

- ・ 旭川空港管制塔から旭川空港事務所及び旭川空港消防隊に緊急事態発生通報。
- ・ 旭川空港事務所から関係機関に緊急連絡。
- ・ 空港消防隊が直ちに出勤，自治体消防（旭川市消防・大雪消防組合）も応援出勤。
- ・ 空港内機関で構成する旭川空港消火救難隊，警察機関，医療機関，自衛隊の要員も次々と現場到着。
- ・ 出火した想定機に対しての空港消防隊，自治体消防隊による消火活動開始（放水）。
- ・ 旭川空港消火救難隊，自治体消防隊，合同による負傷者救出活動。
- ・ 旭川空港消火救難隊にて負傷者の誘導及び担架搬送し，医療機関によりトリアージ地区にて負傷程度の判定（トリアージタグ取り付け）。
- ・ 負傷の程度により，第 1～3 救護所（エアータント）へ誘導・担架搬送振り分け。
- ・ 医師会及び医大の医師・看護師が応急処置を行い，重傷者は救急車またはドクターヘリ，自衛隊ヘリ等で緊急輸送。

報道関係者移動経路

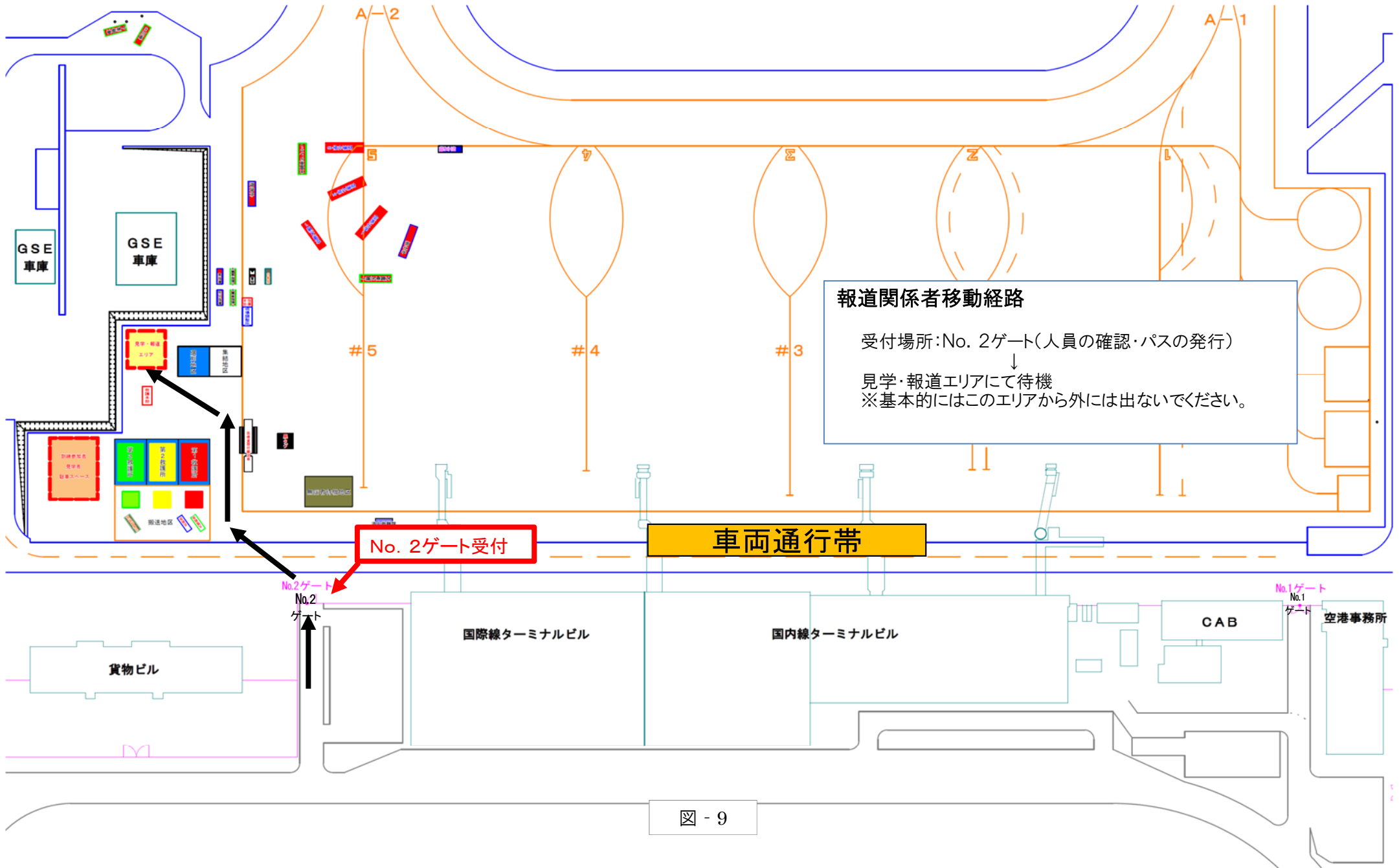


図 - 9